

平成26年度 全国学力学習状況調査の結果について

京都市立旭丘中学校

4月22日に、本校3年生137名を対象に実施された「全国学力調査」では、国語・数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も行われました。その結果を基に、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

国語は、A・Bとも全体的に京都市・京都府・全国の平均よりもほんのわずかに下回る結果となりました。数学は、A・Bとも京都市・京都府・全国の平均よりも上回る結果となり、日頃の取組が反映されるものであったと思われます。

【国語について】

国語A（知識）

・平均正答率を上回った領域＝『話す・聞く能力』『書く能力』

特に5～10ポイント上回った設問には「目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する」、「書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す」があります。これは、意見を交流したり発表することを積極的に取り組んでいる結果だと思います。

・平均正答率を下回った領域＝『読む能力』『言語の知識・理解・技能』

「文脈における語句の意味を理解する」「抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する」という、文章読解の中でも「語句」の知識理解の設問が平均を5ポイント下回っています。

「地域の人をショウタイする」の漢字の書き、「稚魚」「音響」「挑む」の漢字の読みの設問が正答率の平均を下回っています。特に漢字の書きの問題では無回答率が10%を上回っています。また四字熟語や、ことわざ、慣用句、敬語などを文章の中で適切に使うという設問についても平均を下回る結果となっています。

『読む能力』の設問の中でも、「語句」の意味を問う問題においてのみ平均を下回っていることから、本や新聞などさまざまな語句にふれた際に辞書をひくなどをして言葉の意味を正しく理解し、日頃から漢字を用いて書くように心がけてみてください。

国語B（活用）

・平均正答率を上回った領域＝『国語への意欲関心態度』『書く能力』『読む能力』

特に5～10ポイント上回った設問には、「文章に表れているものの見方について自分の考えを持つ」「根拠を明確にして自分の考えを書く」があります。今後も自分の考えを表現したり、発表する活動を大切にしましょう。

・平均正答率を下回った領域＝『言語の知識・理解・技能』

「文章に使用されている表現の技法として適切なものを選択する」という表現技法（反復法・対句法・擬人法・倒置法）の設問で20ポイント以上も下回りました。もう一度、表現技法やその効果について復習しましょう。

【数学について】

数学A（知識）

・平均正答率を上回った領域＝すべて（『数と式』『図形』『関数』『資料の活用』）

特に『数と式』『資料活用』の領域において5ポイント以上、上回っています。また10ポイント近く上回った設問が12問ありました。京都府・全国との平均正答率を15ポイント以上、上回った設問は、「分数を含む一元一次方程式を解くことができる」です。「スピード80」などの基礎基本の計算問題を毎時間取り組んでいる結果だと思います。今後も継続して取り組みましょう。

平均をわずかに下回った設問として、「線分の垂直二等分線の作図の方法を理解している」「空間における直線と平面の平行について理解している」「円錐の展開図において、おうぎ形の半径が円錐の母線に対応していることを読みとることができる」の3問があります。3問ともに『図形』の領域ですので、復習しておきましょう。また「与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を「・・・は・・・の関数である」という形で表現する」の設問において、正答率が35%、無回答率が16%でした。日常生活の中での関数の利用について、普段から考えるなど、ぜひこのような問題形式にも積極的に取り組んでください。

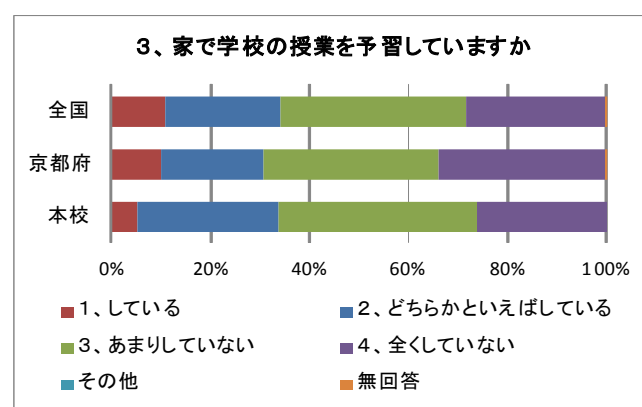
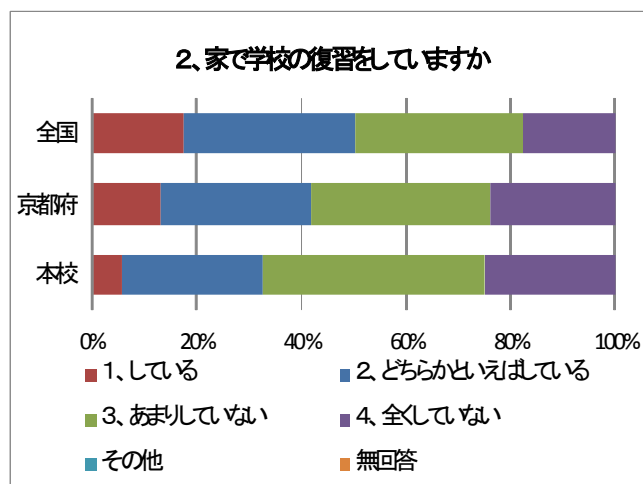
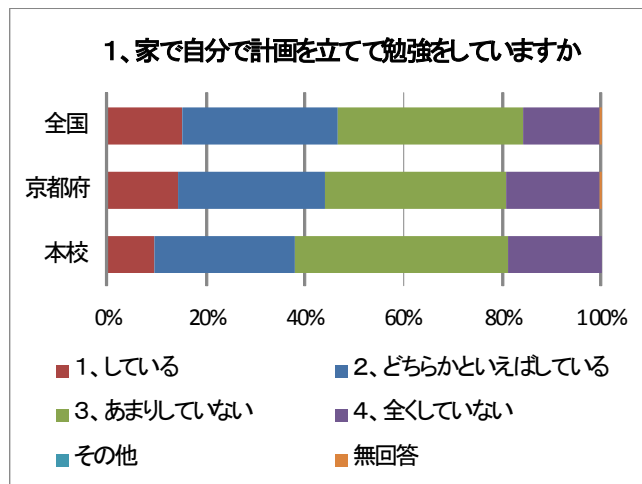
数学B（活用）

・平均正答率を上回った領域＝すべて（『数と式』『図形』『関数』『資料の活用』）

特に10%近く上回った設問は、「2つの線分の長さが等しいことを証明する」「弟が駅に着いたときの兄のいる地点から駅までの道のりを求める」の2問です。そのほか証明やグラフを解釈して答える問題は正答率が高い結果でした。その中で、正答率が10%近く下回った設問として「案内図を基に、経路を示す張り紙を選ぶ」があります。この設問の趣旨は「与えられた図から情報を適切に選択し、空間における図形の位置関係を的確に捉えることができるか」という問いです。数学Aでも『図形』の領域が多く下回っていたように、この領域が苦手な人が多いようです。また「・・・理由を説明する」「・・・方法を説明する」という記述式の設問に対する無回答率も目立ちました。今後、このような苦手な問題形式にも、積極的に取り組んでみましょう。

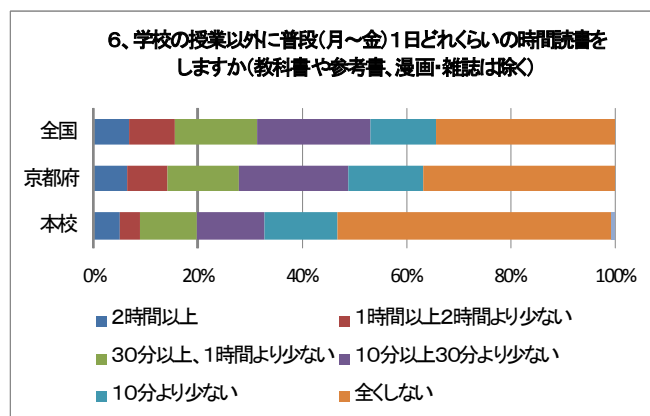
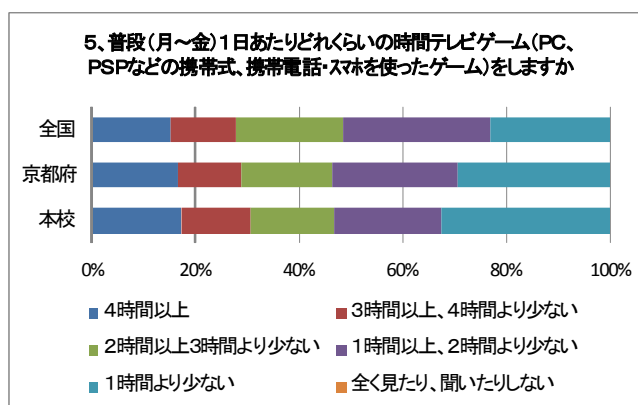
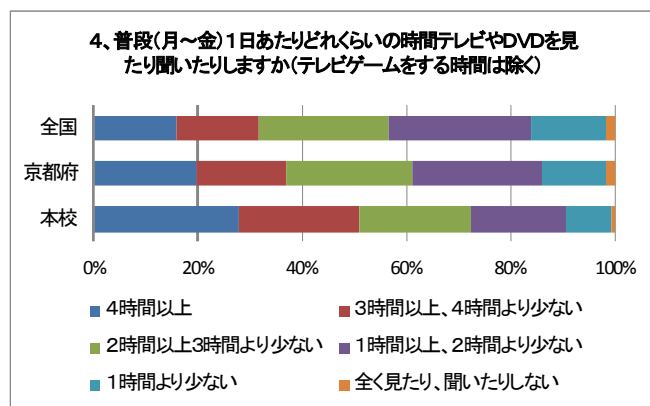
【生徒質問紙調査より】

< 学習面に関して >



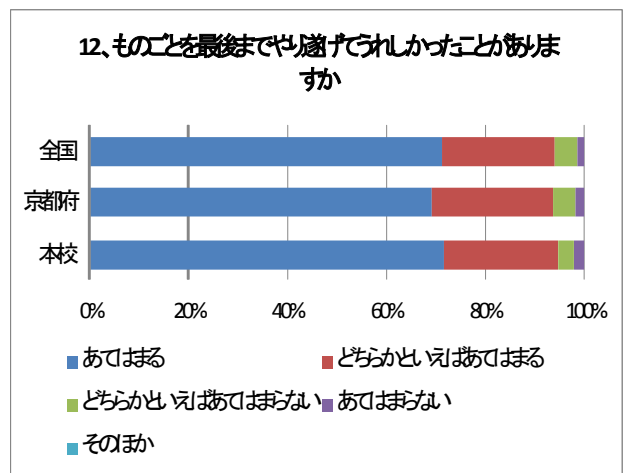
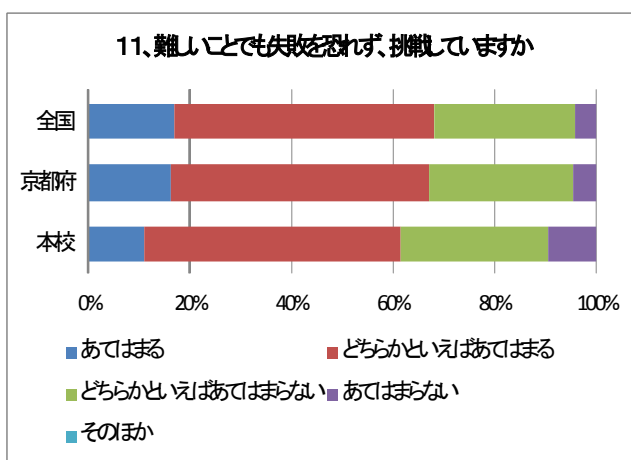
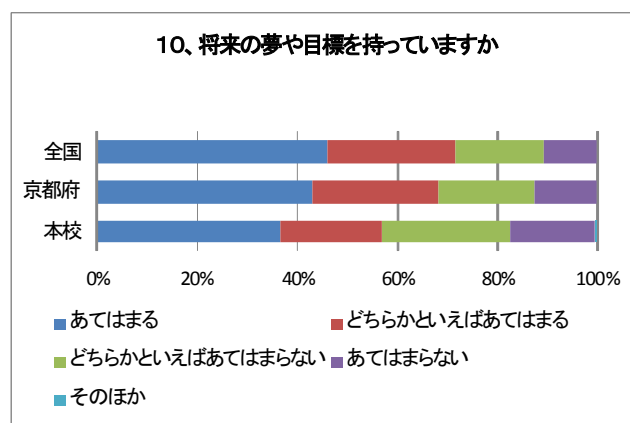
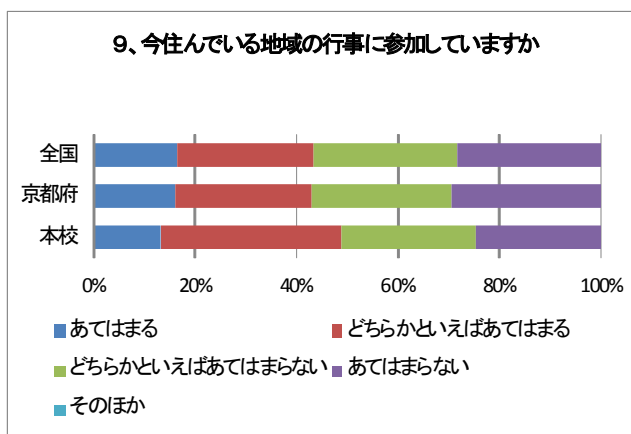
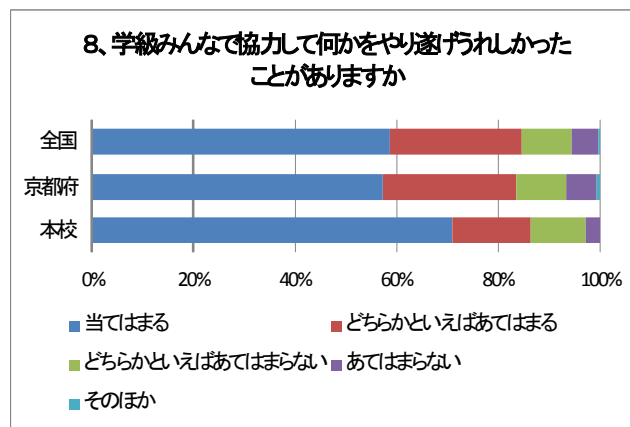
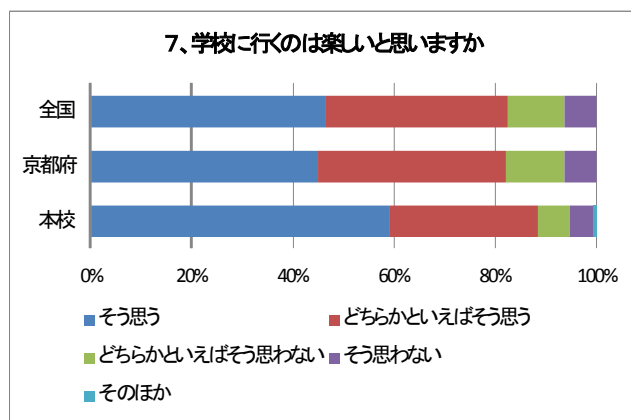
考察： 家庭学習の習慣が未定着な生徒が全国・京都府と比較しても多く、今後、家庭と連携して家庭学習の充実につながる取組を推進していかなくてはならないと考えている。また、自ら計画を立て学習することの大切さを今後も示していく必要性を感じている。

< 生活面に関して >



考察： 平日に3時間以上テレビやDVDを見ている生徒が半分を超えており、京都府や全国の平均よりも高い結果となっており、2時間以上テレビゲームなどを行っている生徒も多い。また、読書活動を全くしない生徒も半数に上り、今後、読書の啓発や重要性を示していきたいと考えている。

< 心情面に関して >



考察： 「学校へ行くこと」「みんなでやり遂げること」を楽しんでいる生徒が大変多く、全校生徒の90%を超えている。また、地域の行事にも進んで参加している生徒も京都府・全国の平均よりも高く、地域の一員として活動している生徒が多いことがうかがえる。

自らの将来に、夢や目標を持っている生徒は京都府・全国平均よりも低く、今後はキャリア教育の充実をはかっていかななくてはならないと考えている。

ものごとを最後までやり遂げてうれしかったと感じている生徒が90%を超えており、今後もあらゆる機会を通して、チャレンジできる場面や時間を設定し、自ら挑戦していく姿勢そして大きな自信を養いたい。

そして、道徳や総合学習、部活動などの活動を通して様々な人々の生きざまや、価値観に触れ、共に生きる素晴らしさや自らの夢や目標を達成するすばらしさを伝えていきたいと考えている。